

## つなぐちゃんベクトル

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会社内誌 臨時増刊 205号 2010.11.26 発行 社会政策研究所

政府の介護保険の見直し論議が大詰めにあさしかかっています。これらの方向性は、障害者制度の再構築にも少なからず影響を及ぼします。政府・与党の検討状況とともに、朝日・読売の両新聞社説を一緒にお読みください。【kobi】

### 「両論併記」の取りまとめ案を了承—介護保険部会

キャリアブレイン 2010年11月25日

社会保障審議会（社保審）の介護保険部会（部長＝山崎泰彦・神奈川県立保健福祉大教授）は11月25日、厚生労働省が示した「介護保険制度の見直しに関する意見」を、同部会の意見の取りまとめとすることを了承した。19日の前回会合で示された素案を修正したもので、異論が続出した居宅介護支援サービスに対する利用者負担の導入や要支援・軽度の要介護者に対する給付の効率化などについては、両論併記の色合いが濃くなっている。



社会保障審議会介護保険部会の37回目の会合（11月25日、厚労省内）

取りまとめでは、素案のうち特に委員からの反発が大きかった居宅介護支援サービスに対する利用者負担の導入に関する部分を大幅に修正。

「利用者負担を導入することを検討すべき」とされていた箇所は、「導入することを検討すべきであるとの意見があった」に変更されたほか、「利用者や事業者への影響を危惧する強い意見があった」といった表現も加えられた。

また、要支援者や軽度の要介護者に対する給付について、素案では「効率化と効果の向上を図ることを検討する必要がある」となっていたが、取りまとめでは「給付の効率化と効果の向上を図ることが適当か否かを検討する必要がある」に修正された。

このほか、導入が検討されている「総報酬割」について、「保険料負担の基本的な考え方や仕組みを大きく変更するものであり、十分な議論なく、財源捻出の手段として導入しようとするのに対して、強い反対意見があった」や、「ペイアズユーゴー原則（歳出増か歳入減を伴う施策の導入や拡充を行う際、それに見合う安定財源を確保する原則）の下では、現場ニーズに見合った給付の議論が難しい等の意見もあった」といった表記も盛り込まれた。

### ■処遇改善の財源めぐり議論

会合では、2012年3月末に介護職員処遇改善交付金が終了した後、どういった財源によって処遇改善を維持するかについて、土居丈朗氏（慶大教授）が「（取りまとめに）『介護報酬改定により、処遇改善の取り組みを継続していく』と書くべき」と主張。これに対し、三上裕司氏（日本医師会常任理事）や榎田和夫氏（全国老人福祉施設協議会介護保険委員

会委員長)らは難色を示した。会合後、記者団に対して山崎部会長は、「介護報酬改定に入れざるを得ないと思う」と述べた。

#### ■菅首相は強いリーダーシップを—山崎部会長

会合の最後にあいさつした山崎部会長は、今回の取りまとめについて「両論併記の色彩が強いものとなった」と指摘。また、介護保険制度が明るい展望を開くためには財源に裏付けられた社会保障のビジョンが必要とした上で、そのためには「強い経済、強い財政、強い社会保障と並んで、強い政治的なリーダーシップが不可欠だ」と述べ、社会保障分野での菅直人首相の強いリーダーシップを求めた。会合後、山崎部会長は記者団に対し、第5期介護保険事業計画期間の保険料の平均額について「財政安定化基金と介護給付費準備基金の取り崩し、総報酬割の導入が実現すれば、5000円以内に抑えられる」と指摘し、特に総報酬割の導入に意欲を示した。

#### 「税も含め財源措置を」—民主・税と社会保障改革調査会

キャリアブレイン 2010年11月25日

民主党の「税と社会保障の抜本改革調査会」(会長=藤井裕久・元財務相)は11月25日、社会保障財源の在り方を中心に意見交換を行った。会合終了後に記者会見した調査会事務局長の大串博志衆院議員によると、出席した議員からは、「社会保障の財源が不足している現状を踏まえれば、きちんと税(方式)も含めて財源措置をしていかなければならない」などの意見が出されたという。

一方で、「社会保障のビジョンを具体的に示し、シミュレーションも行い、それで初めてどれだけ財源が足りないかということを示して議論すべきではないか」など、目指す社会保障の姿を提示するのが先だとする声もあったという。

大串議員は「税の問題にポジティブな意見とネガティブな意見のように聞こえるが、いずれも『財政が厳しく、社会保障の財源は足りていない』という共通認識があり、安定財源の確保が必要だというコンセンサスはあった」と述べた。

これに関連して、社会保険方式と税方式の在り方もテーマになったといい、「社会保険料を上げるのは限界にきている。きちんとした税制も考えるべきだ」とする意見の一方で、「社会保険料は安定した制度で、そのメリットを失うべきではない。皆保険制度における社会保険料は、実際は税に近い性格ではないか」との指摘もあったという。

この日までに挙がった論点を「たたき台」としてまとめ、来週の議論でさらに検討する。

#### 社説：介護保険 増税なしでは行き詰まる

朝日新聞 2010年11月26日

高齢社会で介護の費用は増え続ける。だが、保険料の引き上げは壁に突き当たりつつある。そこで、利用時の負担増やサービスの削減を検討せざるを得なくなった。

2012年度から3年間の介護保険制度について、厚生労働省の審議会がきのう意見書をまとめた。その文面からはこんな窮状が透けて見える。

参院選での民主党大敗後、菅政権が消費税を軸とする増税論議を封印したため、新規の財源確保は間に合わなくなった。そのことが保険制度内での負担増や、サービス給付削減の圧力を高めている。このままでは介護保険はやせ細り、安心は遠ざかる。

もはや政府が「税金を上げないと、制度がもちません」と国民に正直に言うべき時ではないだろうか。

厚労省によれば、現在のサービスを維持するだけで65歳以上が負担する保険料の全国平均は12年4月から今より1千円も増えて月額約5200円になるという。高齢化による介護費用の膨張圧力はそれほど大きい。

市町村は、高齢者からは主に年金天引きで保険料を集めているが、大幅な負担増は難し

いとの声が強い。

このため審議会の意見書は「保険料は月5千円が限界との意見もあり、伸びをできる限り抑制するよう配慮することも必要である」とした。

その具体策として、サービス量を減らしたり、利用に応じた負担を増やしたりする選択肢を並べた。

年金などの収入が比較的多い人の自己負担を現行の1割から2割に増やす案が打ち出された。だが、収入の多い人はすでにより多くの保険料を払っているから、反発が予想される。

要介護度の軽い人が多く利用する掃除などの生活援助に関する負担増の提案もあるが、反対意見との両論併記となった。自宅での生活に必要なサービスの利用を控えたために重度化し、病院や施設に入るなどすれば、介護費用が逆に膨らむ恐れもあるからだ。

増税による新たな財源を期待できない以上、当面は制度の枠内でやり繰りすることはやむをえない。けれども、こんな状態が続けば保険料や利用者負担がじりじり上がり、サービスは低下するという悪循環に陥る。

審議会では、単身・重度の要介護者も在宅で暮らせる「地域包括ケアシステム」構想も示された。だが、財源なしでは絵に描いた餅にすぎない。

介護保険を行き詰まりから救い出し、安心して暮らせる高齢社会を築くには、裏付けとなる財源を示す必要がある。業界や利用者の代表らで構成する審議会では限界がある。

やはり消費税を含む税制と社会保障全体の抜本改革が欠かせない。菅政権は今、そのことを自覚し、勇気をもって国民に語らねばならない。

## 社説：介護保険見直し 財源抜きのやり繰りも限界だ

読売新聞 2010年11月26日

高齢化が加速する中で介護保険制度をどう見直すか——。社会保障審議会の介護保険部会が25日にまとめた意見書は、現状の財源の枠内で、さまざまな調整策を提示するにとどまった。

政府・与党は社会保障の財源に欠かせない消費税の議論に及び腰で、改革姿勢が全く見えない。

そんな状況では、思い切った意見を出すのは難しい。「見直し」より「帳尻合わせ」という言葉がふさわしい内容になったのも、無理はなかるう。

世代を問わず保険料や窓口負担の重さは限界に近い。制度を維持するには、消費税率を引き上げて公費の投入を増やすしかない。

介護保険制度は2000年に導入されてから10年たつ。

サービス利用者は制度発足時の149万人から、現在は約400万人まで増えている。介護費用は当初の3・6兆円から7・9兆円に膨らんだ。高齢者が払う月額保険料も、初年度の平均2911円が、今では4160円だ。

厚生労働省の試算によると、このままでは12年度に5000円を超え、介護職員の待遇改善のための報酬改定などを織り込むと5200円になる。夫婦で月1万円以上の介護保険料は、負担の限界を超えるとの声が高い。

5年に1度の節目となる今回の見直しでは、老老介護など深刻な状況に対処するための対策などと併せ、介護の必要度が低い人をどの程度まで制度の対象とすべきかといった、掘り下げた議論が期待されていた。

だが、保険料を月4000円台にとどめるための方策をひねり出すことで精いっぱいだった。

たとえば、所得の高い高齢者はサービス利用時の自己負担を現行の1割から2割に引き上げる、企業の組合健保や公務員共済に加入する現役世代にも保険料の負担増を求める、といった措置だ。

取りやすいところから取る、という図式は、後期高齢者医療制度の見直しと共通している。

財源について、意見書は「社会保障と財政のあり方全体の中での課題である」と記し、間接的な表現ながら、消費税の議論の必要性を指摘している。

政府・与党は、来年の通常国会に介護保険法の改正案を出す方針だ。意見書の内容をどこまで盛り込むかは政治の判断になる。

増大する利用者と介護費用に見合った財源を確保する道筋を示さなければ、国民に受け入れられる制度にはなるまい。

## 発信箱：自腹でおもちゃ = 本橋由紀（夕刊編集部）

毎日新聞 2010年11月26日

東京都内の公立保育園の予算が少なく、保育士が自腹でおもちゃを買って使っているために、保育士の異動があるとおもちゃも移ってしまうという話を聞いた。以前から教材費は少なく、保育士が牛乳パックでままごと用のテーブルやいすを作ったり、広告の裏紙を活用していたが、子どものためとはいえそこまでだとは聞かなかった。

予算の仕組みが変わり、国が負担していた公立保育園の運営費の一部が、どのようなことにでも使える一般財源に組み入れられたのは04年度からだ。今年8月、東京特別区議会議長会が国に出した要望書では04年以来、財政が厳しく「多くの自治体で保育予算を減らさざるを得ない」、「国の進めようとしている規制緩和による詰め込みでは真の待機児解消にならないことは明らか」と財政的な支援を求めている。

以前、ある地方議員は子育てに関して「高齢者は票を持っているが、子どもにはない」とけんもほろろだった。昨年の政権交代で、「子ども」に対するスタンスが変わるのかとちょっぴり期待した。「子ども手当」などの手法はともかく、社会で子どもを育てようという意図はくみ取れる、とあの時は思った。でも今、どのような責任を果たそうとしているのかわからない。

国は10年後をめどに幼保一体化する構想を打ち出したが、ワーキングチームでは反対論も噴き出し議論が沸騰している。この過程で語られているお役所用語を読み解くと、すべての子どもを対象に、低所得者には配慮するものの保育時間の長さによって保護者の負担額を決める、財源が確保できなければもっと負担させる、ともなる。

あの時、子育てへの覚悟を期待したのが甘かったのか。自分でおもちゃを買いに行く保育士は、どんな気持ちでおもちゃを選んでいるのだろう。

## 自立への夢入り たい焼き人気

朝日新聞 2010年11月26日

徐々に常連客もつき始めた「たい焼き屋さん」 = 横浜市栄区中野町

知的障害者らが焼きたい焼きが、横浜市栄区で人気を呼んでいる。5月の開店から半年がたち、常連客もつき始めた。一つひとつ丁寧に仕上げたたい焼きには、自慢のあんこと自立への夢がぎゅぎゅ詰まっている。

「たい焼きを二つください」。屋台の前に現れた女性の注文を聴くと、朱色のエプロンを着けた笑顔のスタッフが手早く焼きたてを包んで手渡した。時々買いに来るとい



この女性は

「甘さが控えめなのが気に入ってます。だんだん味がよくなっていくのも楽しみの一つです」と笑う。他にたこ焼きもあり、夏にはかき氷も出していた。

「杜(もり)のたい焼き屋さん」は5月、同区中野町の市中野地域ケアプラザ前に開店した。向かいにある「喫茶・杜」には食品販売や喫茶コーナーがあり、施設を利用する高齢者らでにぎわっている。お店を運営する授産施設「SELP・杜」は1998年に発足し、安全で厳選した素材のパンや菓子、豆腐、めん類などを作っている。丁寧に作られた製品は地元の名物だ。

能力や個性に合わせて仕事を分担し、「職人」になることを目指す。ひたむきな性格の人は、温度や湿度に応じて小麦粉と水分量を微調整する。力が強い人が絶妙の力加減で打つめんは腰の強さが好評だ。

JR大船駅近くにはうどん屋「杜の台処」、JR洋光台駅近くに「杜のパン屋さん」もある。全部門の年間売り上げは約1億円で収支ぎりぎりの厳しい線だが、就労の場を広げるため、施設を運営する社会福祉法人「杜の会」の師康晴理事長が今回の出店を決めた。同施設職員は「やりがいを持って仕事をする事でハンディが補え、表情も明るくなる」と話す。障害者年金に施設の工賃を加えれば約10万円となり、グループホームに入居しても自立できる。施設利用者96人のうち約30人がホームで一人暮らしをしている。

「たい焼き屋さん」の準備は4月から本格的に始まった。職員とパート2人、知的障害者5人でチームを組む。できあいのミックス粉などではなく国産中心の原材料を使い、自前の配合で改良を重ねた。スタッフは「試食続きでみんな体重が増えて顔が膨らんでいた」と振り返る。

3時間かけて煮込んだあんこはしっとり甘いが、もたれない。手抜きのない仕事がおいしさを生む。開店後も試行錯誤を重ね、皮の軽さやあんこの味を追求した。当初1日1万円に届かなかった売り上げも秋に入って2万円ほどに増えた。いずれは、小麦や小豆を自前の畑で作った原料でまかなうことが目標だ。

あんこを煮る係を担当する奥泉健太郎さん(31)は「分量や順番は覚えたけど、焦がさないように気をつけるのが大変。『おいしい』と声をかけられた時が一番うれしい」と話している。(古沢範英)

## 授産製品の展示・販売

### torute(トルテ)新規オープンのお知らせ

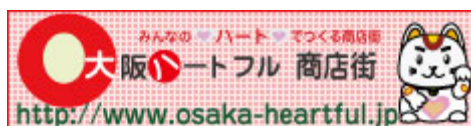
大阪市では、平成22年12月3日(金)から堺筋本町駅構内に「大阪ハートフル商店街」のアンテナショップ「torute(トルテ)」をオープンします。

場所 市営地下鉄中央線「堺筋本町」駅構内(中北改札口付近)

開店時間 午前9時30分から午後5時00分

定休日 土・日・祝日

障害のある人が作業所や支援施設で作った製品を授産製品といいます。縫製品や織物、紙製品、食品、雑貨など、手作りの良さを生かした心のこもった製品が作られています。



たまには太陽の子・手をつなく、たまにはつなぐちゃんベクトル、たまにブログたまにはチェック



大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなく育成会 社会政策研究所発行